

北海道各地から産出する黒曜石
その7えんがるちいき
遠軽地域

(Engaru Area)

遠軽地域の社名淵を流れるサナブチ川において、黒曜石の転石を採取することができます。この地域では、これまで黒曜石が発見・報告されたことが全くなく、私(向井)の現地調査によって新原産地であることが初めて確認された場所です。

遠軽地域では新第三紀中新世後期に相当する社名淵層上部層の「谷本川火砕岩」が露出しており、この火山礫凝灰岩中に礫として含まれていた黒曜石が洗い出しを受けたものです。採取される黒曜石は、若干角張っており水和層はさほど発達していません。大きさは5.0cm前後のものまで採取できます。色は漆黒色であり、他の産地では全く見られない常に水に濡れたような独特の光沢を呈しています。これは、黒曜石表面の凸凹がかなり少ないためと思われます。

黒曜石の破壊時の断面は、①明瞭～やや不明瞭の貝殻状断口を呈するもの、②ほぼ平面～曲面となり、その縁がわずかであるが貝殻状断口を呈するもの、③破裂するように勢い良く飛び散り小さな破片となって原型をとどめないものがあります。このうち②と③の割れ方の特徴は、谷本川火砕岩の火山礫凝灰岩に含まれていた時に、一種の熱変成作用、すなわち再加熱を受けたためです。国内初の発見・報告です。詳細は旭川市博物館研究報告に記載されています(向井、2003)。このように、遠軽地域の社名淵を流れるサナブチ川産出の黒曜石は、外観の他に割れ方でも国内の黒曜石では初めての独特な特徴があり大変貴重であると言えます。

石器の材料としては、一部を除き適していると考えられます。この地域の黒曜石は、遠軽組成グループに分類できましたので、今後の調査・化学分析によっては、遠軽周辺にある遺跡から社名淵産を使った黒曜石の石器が見つかるかも知れません。

また、ここから約10km北北西の紋別市の上モベツ川流域にも、紋別産の黒曜石とは別に、この遠軽組成グループに属する黒曜石が分布しており、広範囲に分布することが分かりました。しかし、噴出源については、今後、更に継続的な広域調査が必要です。(学芸員 向井 正幸)



谷本川火砕岩中に黒曜石の礫が多数含まれる。サナブチ川に多数点在する。



社名淵を流れるサナブチ川から産出する黒曜石。新原産地である。



新第三紀中新世後期に相当する社名淵層上部層の「谷本川火砕岩」。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

